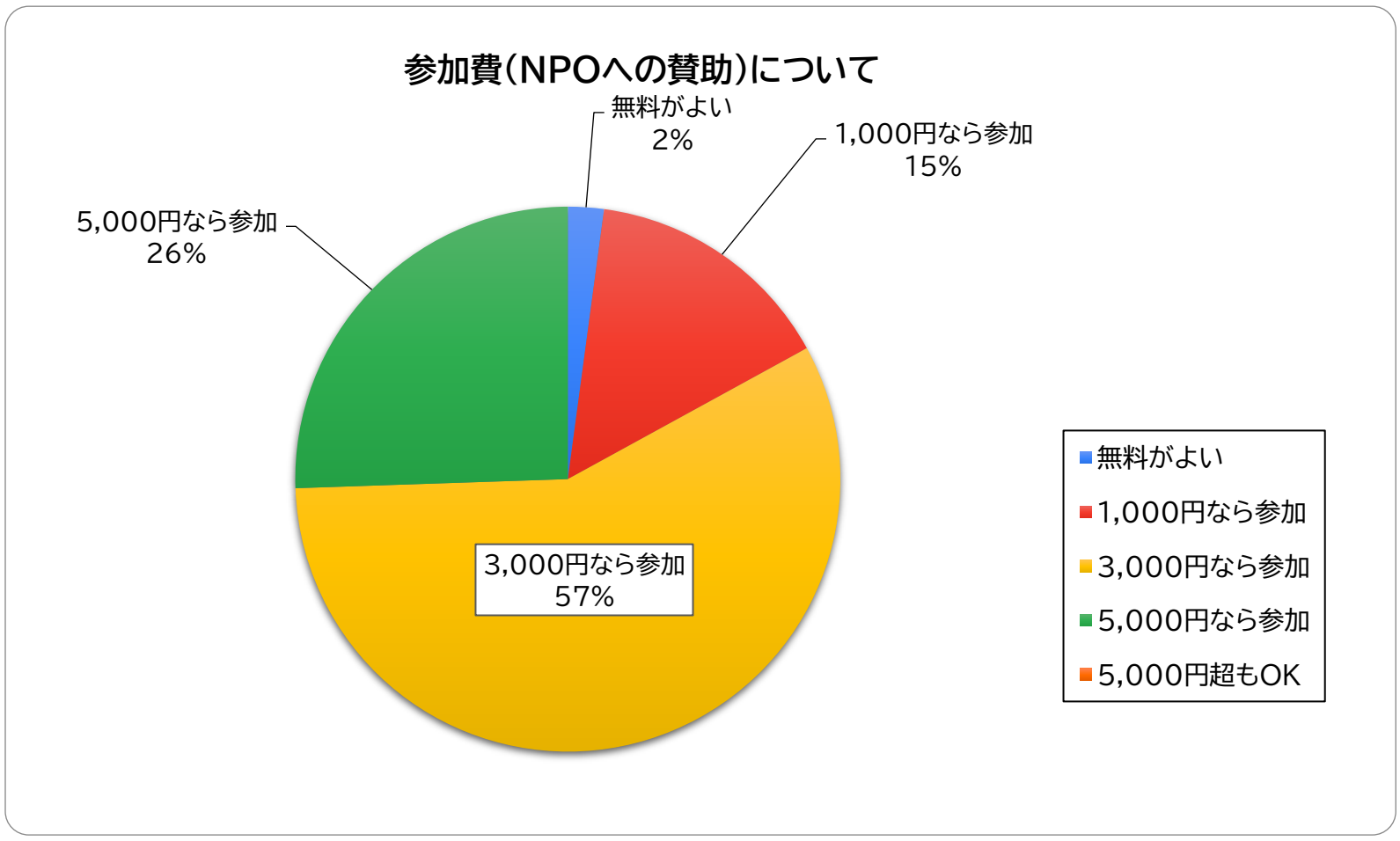
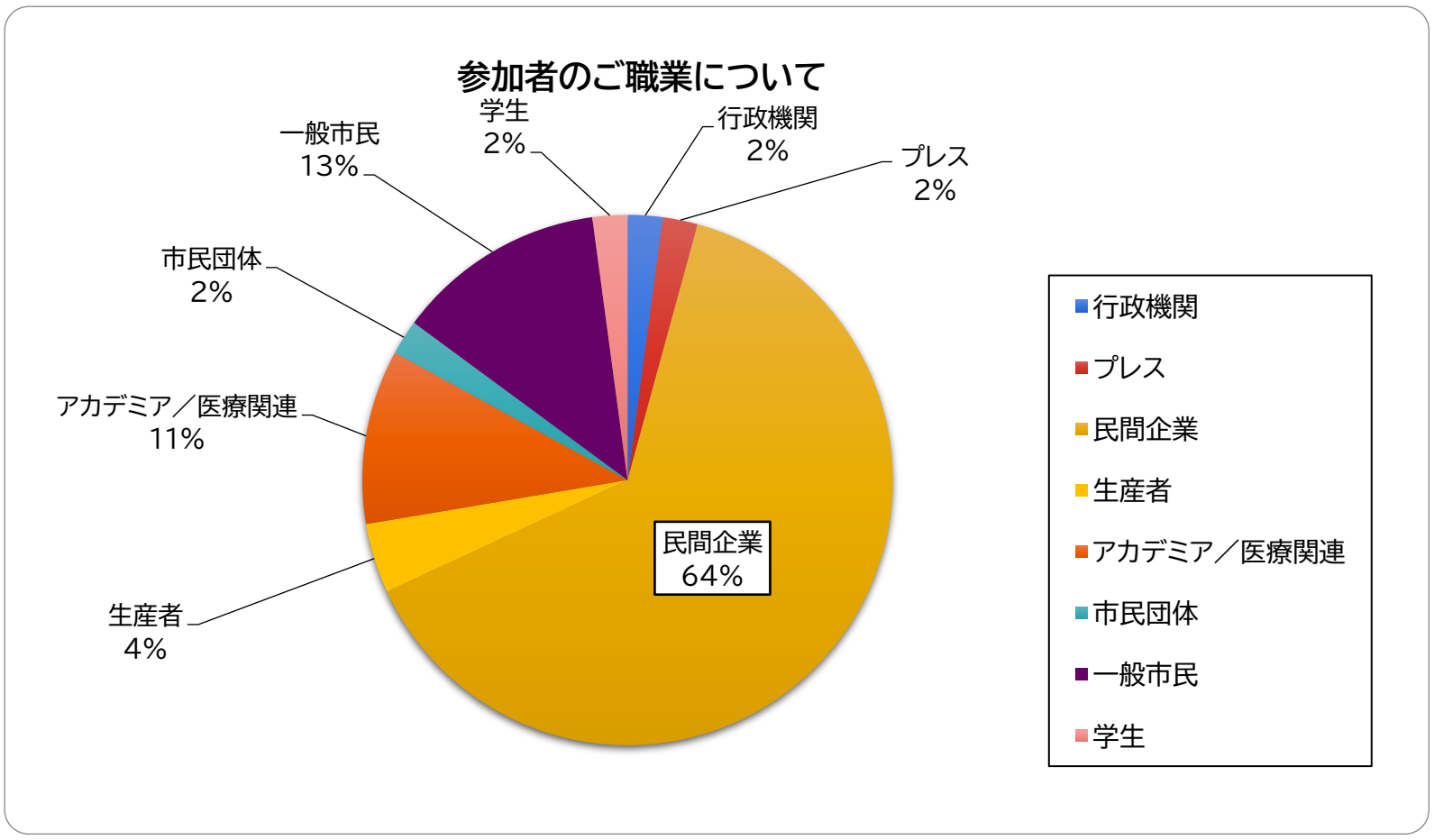
SFSS食の安全と安心フォーラム第22回
『いまなぜファクトチェックなのか ～食のリスクにかかわる誤情報に立ち向かうために～』

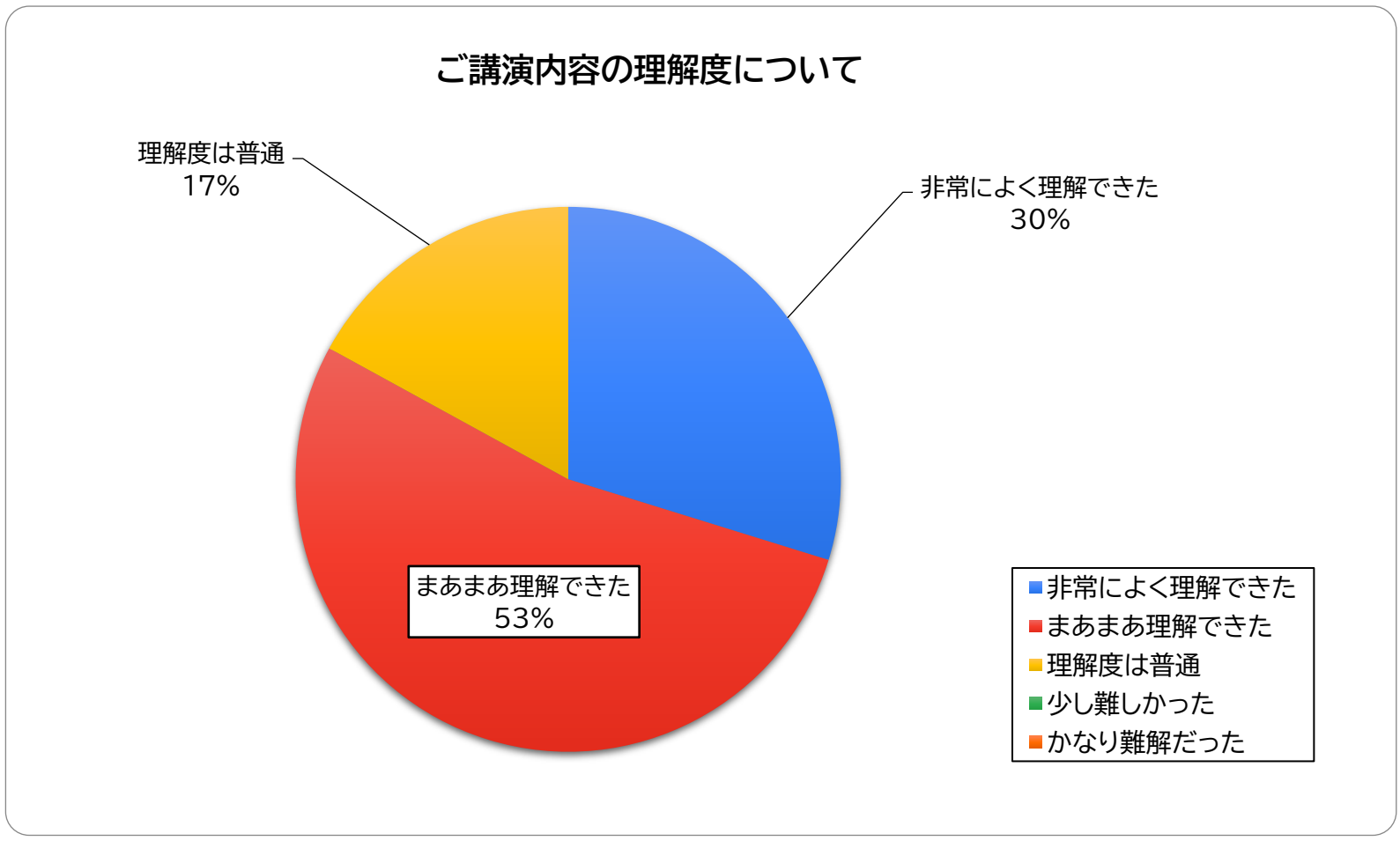
【開催日】2022年2月20日(日) 14:00～17:00
【開催場所】オンライン開催(Zoom)

アンケート回収数47枚(参加者:105名、演者6名を除いた回収率:47%)



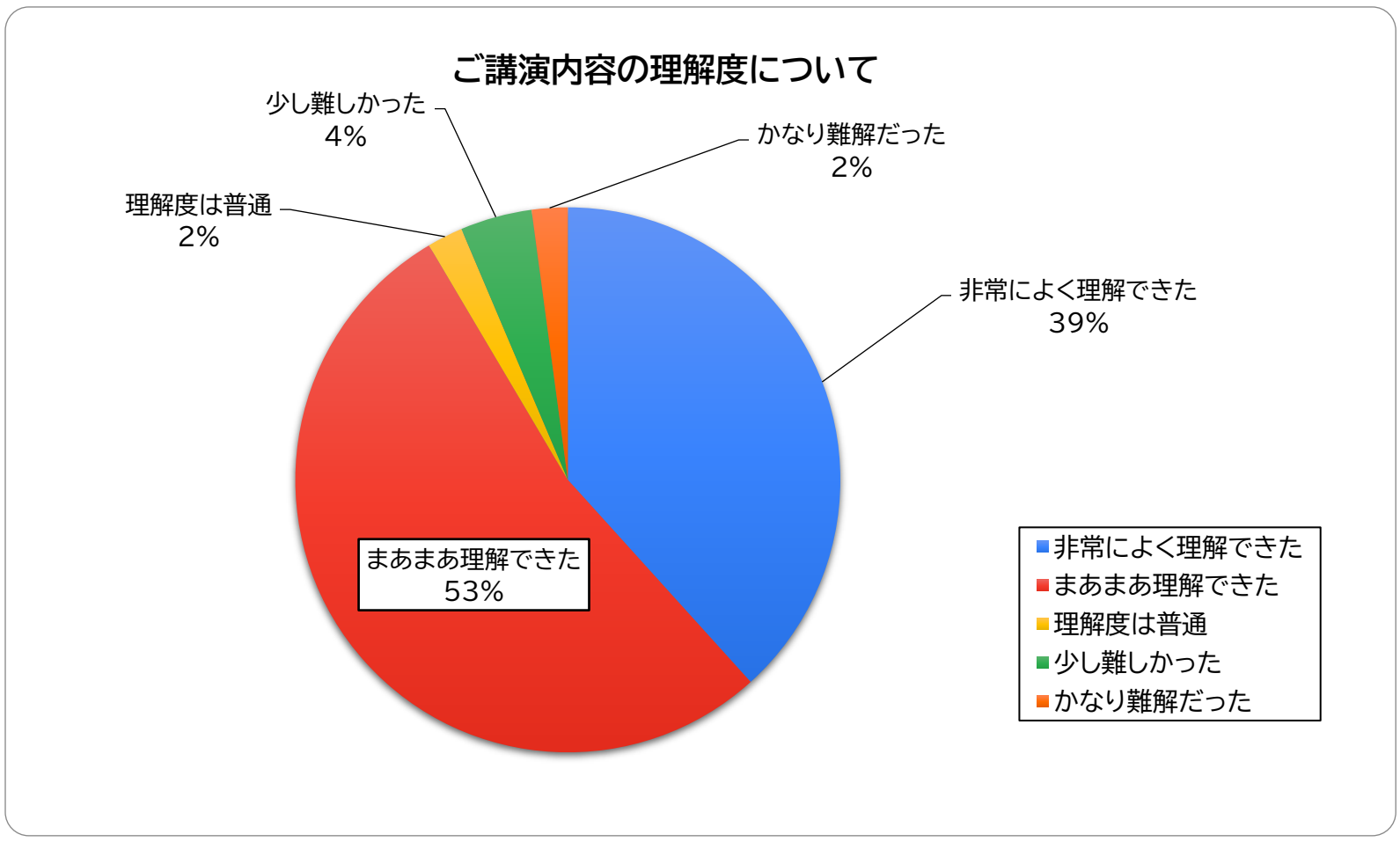


① 開会あいさつ『ファクトチェック・イニシアティブ（FIJ）のご紹介』（事前撮影動画）
瀬川 至朗（FIJ理事長、早稲田大学政治経済学術院教授（ジャーナリズム））



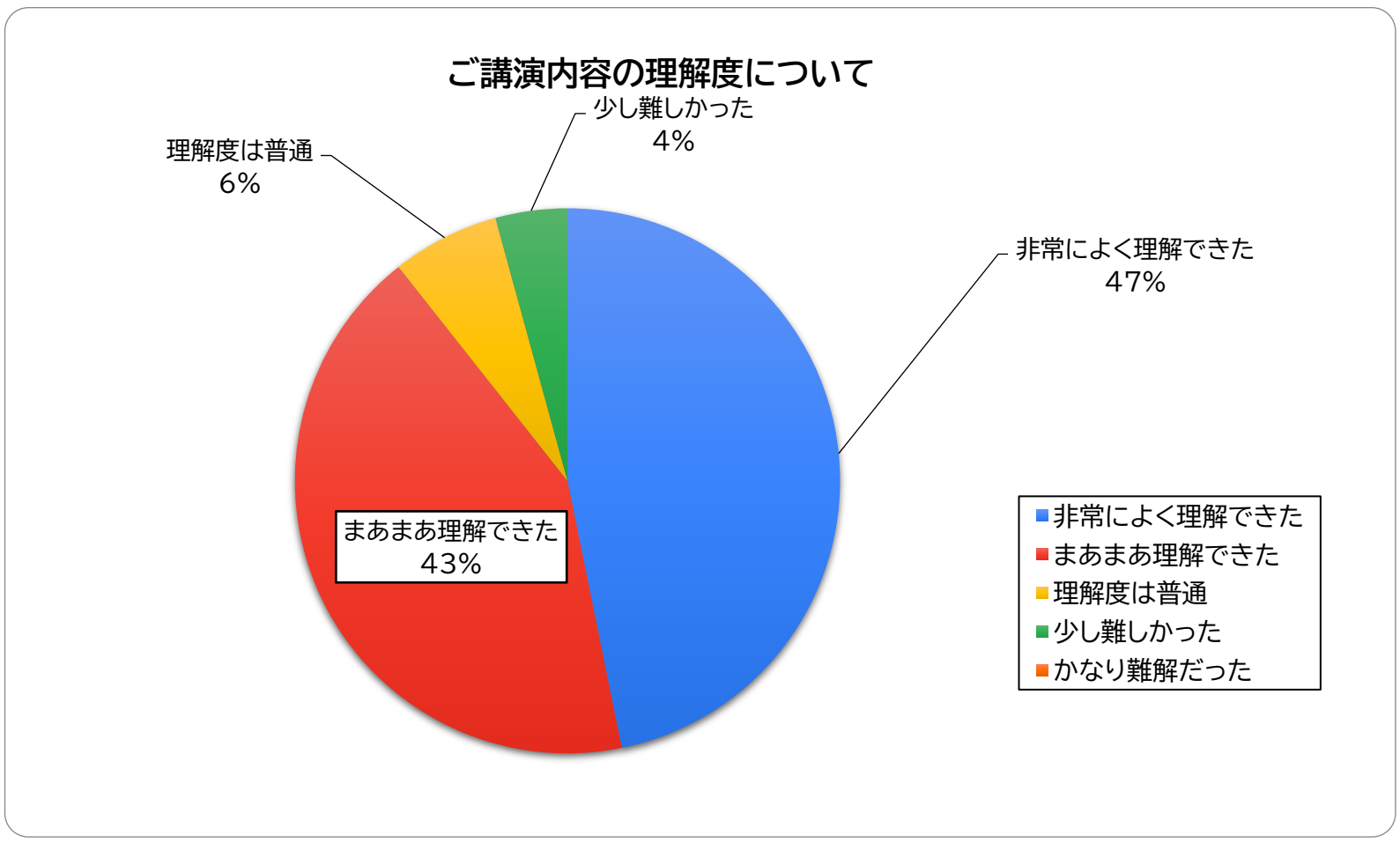
FIJの目的がファクトチェックの意義やそもそもの認知や理解のためであることを理解しました。
FIJの活動や存在を知らなかったので、良い情報を得た。メルマガを登録した。
事前配付資料にスライドが無かったのが少し残念でした。
分かり易かったです
このような団体が活動していることを知らなかったので大変興味深く拝聴いたしました。
ファクトチェックの現状と、その取り組みについてよく理解できた。また、疑義言説収集システムの活用による効果についても学ぶことができた。
学術的で、良かった。
この組織、活動を大手メディアへ波及させることの具体的な方法を積極的に進めて下さい。
開会挨拶は内容が濃く、改めて講話をお願いしたいと感じました。
日本のファクトチェックの立ち上がりが諸外国に比べて遅かったのは日本文化の特徴かもしれません。日本語の文字の意味が多様なため外国語の様な単純明快性がないのがファクトチェックしにくい環境と思います
ファクトチェック団体のFIJの存在を知ることができた。
FIJの主な事業内容について知ることができてよかったです。
Claim monitor のあたりが、難しかったです。
日本ではファクトチェックの担い手が不足しており、認知度も低いため、今後のFIJ様の活動に期待します。
FIJという団体とその活動を初めて知りました。
ファクトチェックが民主主義の根幹をなしていること、日本でファクトチェックの認知、担い手の養成が遅れていること、FIJの取組み、実態がよくわかりました。
必要性を感じましたが、実際にはなかなか難しく、専門人材の育成（養成）を考えて、考え方含めて広めて行く事が大切だと感じました

②『ファクトチェックとは何か　～FIJファクトチェック・ガイドラインの解説～』
楊井 人文（弁護士/FIJ理事　兼　事務局長）



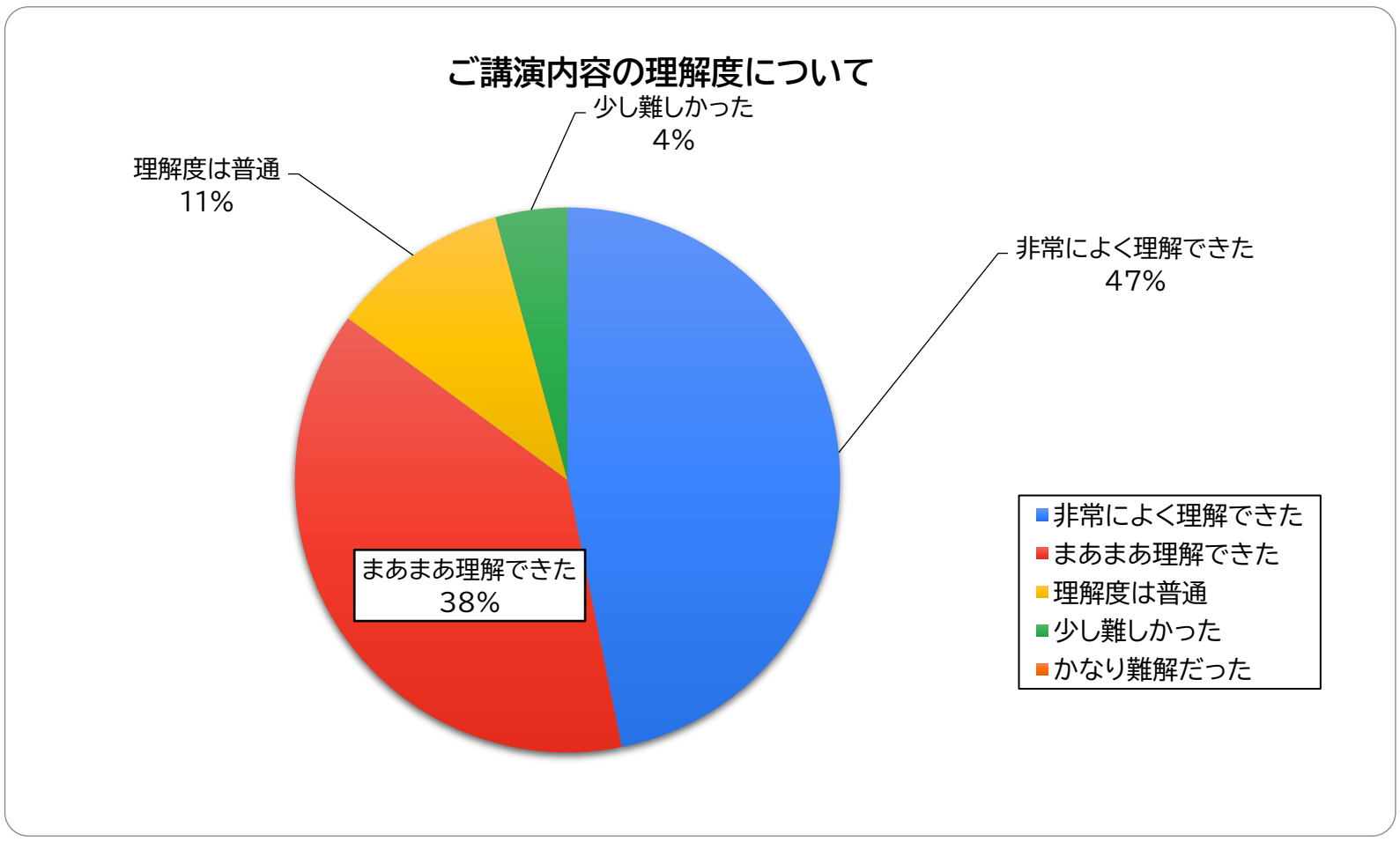
レーティングが事実認定そのものと異なり、丁寧な説明が必要なことがわかりました。
頭の中が整理されました。ありがとうございます。
ファクトチェックが国際的な取り組みであることは理解していますが、日本と海外でスタンスの違い（国民性の影響？）があるだろうか、と考えました（ただの雑感で、質問というほどのことでもありません）。
判定のプロセスやガイドラインについて触れることで、興味を持つことができました。終盤の「万能ではなく限界がある」との話にすごく納得しました。どこかファクトチェックが浸透すれば万事解決、みたいなものと想像していた自分に気づきました。
世界的な仕組みが整えられつつあることを知り驚いた。知らない用語が沢山あったので勉強する動機づけになった。
「目的がフェイクニュース撲滅ではない」というのが目から鱗でした。参考書（岩波ブックレット）紹介がとても有難く感じました。
冷静であることが必要だと改めて感じました
イントロとして良かった
わかりやく聞けました
ファクトチェックに関する評価基準や要諦が、非常にわかりやすい説明で良かった。
私共は、市民団体です。患者の実態を知りそれを社会化することを目的に活動しています。先生のお話は、日常的に注意して判断、行動していることを体系的に解説していただいた思いです。ただ、私たちは患者からの電話相談や交流会での質問に対して「検証結果はこうだからそれは誤情報の可能性が高いです。惑わされないで事実を確認しよう」と話すことしかしていません。参考文献を紹介したり、医師や看護師、栄養士などと話し合うことを勧めたり、その方法をいっしょに検討したりしています。アウトプットは発信、記事化とは少し違うのですが、私たちの活動にとってファクトチェックし続けることが重要だと考えています。お話を聞いてなぜか心が洗われる想いでした。ありがとうございました。
ファクトチェッカーが持つ悩みや、事実提示と意見表明を分けて考える難しさについてよく理解できた。
海外のファクトチェックの紹介があり、大変勉強になりました。ありがとうございます。
「看過できない重要な不一致」の判断には主観的要素が入ってきてしまう難しさに気付かされた
根拠となる資料へのアクセスのための方法が今一歩理解できなかった。
まさにファクトチェックとは何かプロセス、ルール等を分かりやすく解説され、理解力不足を認識しました。
ファクトチェック組織が世界中に多くある事に驚きましたました。ファクトチェックの団体の存在が日本では限られた人にしか認知されていないと思いますので活動を多くの分野と若い年齢層にに広宣する必要あると実感しました。
「事実」と個々人が考える「真実」とは異なるものだと感じた。
ファクトチェックのプロセスやルールなど、詳しく教えていただけたので、ファクトチェックの全体像がつかめました。
ファクトチェックについて、わかりやすく説明いただきありがとうございました。ファクトチェックというと、正義感のようなものが見え隠れしそうだがそうではなく、フェアで透明性が確保されていること、特定の立場から離れて行うもの、擁護や批判が目的ではないなど、ファクトチェックの基本的な考え方を知ることができました。また、”レーティングは鬼門”のお話も興味深かったです。
メディア関連では一般的であろう語句も、聞きなれないため、ややついていくのに苦戦しましたが、内容はよく整理されていて分かりやすかったです。
ファクトチェックの具体的な方法、ルールがよく分かりました。 誤情報を野放しにせずに、ファクトチェックによって可視化して把握することでメディア情報リテラシーの向上につながっていけばいいと思いました。
ファクトチェックは、民主主義を支える公共的役割として重要であることがわかりました。
ファクトチェックのルール（検証対象、レーティング）があること、人によって「看過できない重要な不一致」はそれぞれ異なるため、多様な担い手が必要用であることがよくわかりました。
品質と同じで、推論・仮説では無く、事実は何か？客観性を最も大切にする考え方はとても入りやすい。しかしながらそこには検証含めて時間・労度を要することになる。専門家とのより密接なコミュニケーション力が重要になると感じました

③『ファクトチェッカーの心得　～InFactのファクトチェックの事例から～』
立岩 陽一郎（InFact 編集長）



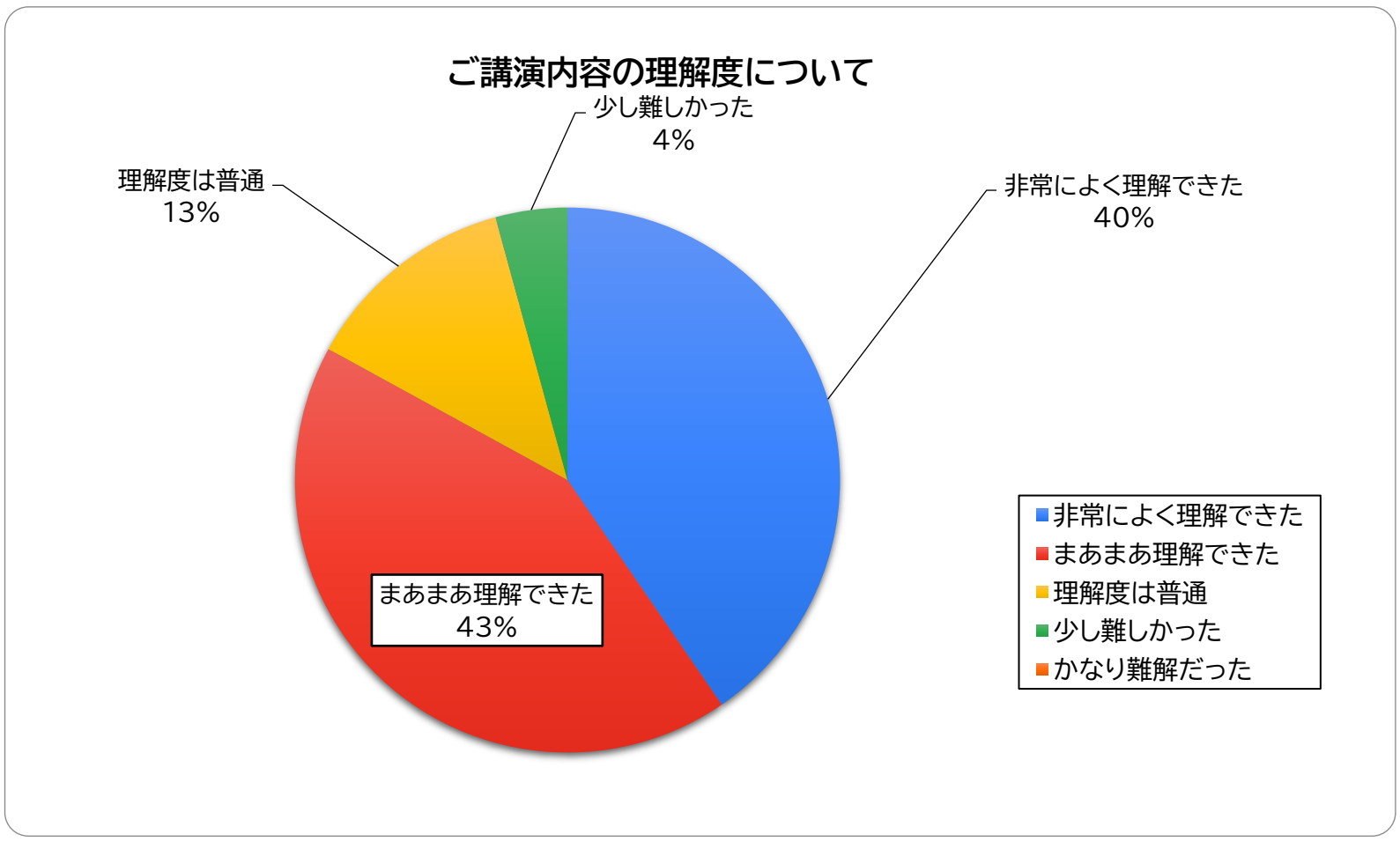
とても興味深いお話しを有難うございました。今後ともご活躍をお願い申し上げます。
中途半端な根拠を足し算しても判断できる根拠にならないというところが、今までの自分の考え方で振り返らなくてはならない部分があると感じました。
特にありません
私が疎い政治の例も話され、「そうなんですね」などと思いました。地道な活動が、劇的には変わらずとも、じわじわと変えることにつながるので大事ですね。
ファクトチェッカーの心得を理解していなければ、ファクトチェックを誤る危険性（ファクトチェッカーがファクトを流すリスクを自覚していなければならない）があることがわかりました。
ファクトチェックは真実探究でない。真実を解き明かすためにやるものでない、との話にはっとしました。どこかで「ファクトチェックをすることで、真実はこれだ」というのが決まる気がしていましたが、ぜんぜんそんなことはない、と理解しました。また、発信者を非難しない、発信者に問合せる、というガイドラインがとても重要と考えさせられました。いろんな考えの人がいて当たり前、記事が攻撃的になることは避けるべきです。
ファクトチェックには、勇気と強い信念、地道な継続が必要なことを知り、大変なことを知った。予想される危害が大きい割に見返りが少ないように感じ、何が立岩氏を突き動かしているのか知りたくなった。
現場感覚あふれるお話、大変感動しました。まあまあ・・・としましたのは、私がファクトチェッカーではないからです。
事例に興味があったが、写真だけだった小池都知事の発信についての説明が欲しかった
実務を通した事例を聞けました
後半のPディスカッションで、立石さんの楊井さんに対する関係を、考えの異なる友人と位置付けていた事になるほど、と思った。最後に行っておられた”表札を外している”、という現実に、この活動の社会的な意義の深さと怖さを垣間見た感じがします。
私共は29年活動を続けている市民団体です。コロナ禍の前まではいくつかの団体から執拗に根拠のない事実を突きつけられながら非難される中で活動を続けてきました。事実無根の非難でもトラブルをきらう（判断停止する）医師たちにはその情報が「事実」として伝わり、それがさらなる困難を生むという状況を長く経験しながらの活動でしたので、文章を書くことや、発言に対しては大変注意を払う癖がついてしまいました。新しい医療情報や科学的見解、事件などの様々な「できごと」に対して、その根拠は？その背景は？発信者の意図は？私たちはそれをどのように判断するのか？メディアからコメントを求められたときどう答える？という確認をやり続けてきました。一次情報までたどり、時には発信者に質問するには時間と体力（団体としての経済力も）が必要でした。事実無根のバッシングに鍛えられたと言えるかもしれません。不思議なことにコロナ禍で学会出席などが全てオンラインになってからは、バッシングにさらされることはなくなりました。 立岩さんのお話を聞いて元気になりました。また、価値観が違うということと友達であることは関係ない（価値観が違っても友達になれる）楊井さんと立岩さんの様子を見て勇気づけられました。ありがとうございます。
発信者との対話の姿勢の大切さや、そのために実際に会うことなど、ファクトチェックをする上での心構えについてよく理解することができた。
限界と身近な具体例と同志社大の学生と共にされているという事で、興味深かった。
科学分野のファクトチェックは、知識面で1段階ハードルが上がる。学生時代の自らを振り返ると、学生に担わせるのは酷かと思う
話し方が魅力的で良かったのですが、もう少し具体例を多く示して頂きたかった。
まずは発信者に問い合わせること発信者と対話しない限り攻撃的になってしまうこと等発信の事実の検証に徹する。中途半端に突っ込むことは心得に反する攻撃行動であることを納得した次第です。
ファクトチェックは「真実探求ではない」との話に目から鱗が落ちました。立岩氏の明快でシンプルな説明にファクトチェックの本質を垣間見ました。
情報発信者を非難せずに対話することが重要であることを学んだ。
発信の事実の検証に徹する、ということが印象に残りました。発信された内容に疑問を感じるとその人の人格まで否定してしまいそうになることはあるので、ファクトチェックの過程で発信者に問い合わせる、発信者を非難しない、という行動もとることは、確かにポイントであると思いました。
”根拠は足し算ではないという”ご発言が印象に残りました。また、発信者との対話を大切にする、とのお話に、そのことの大切さを理解すると同時に、難しさも想像してしまいます。自分の意見と同じであっても反対であっても、自分の立場や意見は一旦横において中立的に対話をするための秘訣など伺いたいと思いました。
まだ試行錯誤が続いている段階である（今後ずっとそうなのかもしれませんが）というのが印象的でした。
ファクトチェックは真実を明らかにするものではなく、個別の事実確認であることが、具体例とともに説明してた抱き、分かりやすかったです。
若い世代とのかかわりに重きを置いて取り組んでいるのが面白いと思いました。
ファクトツールは真実探求のツールではないというのは新たな発見でした。 フェイクニュースの事例についても非常にインパクトがあり興味深い内容でした。
ファクトチェクは真実を明らかにする事では無い。という所は納得感が有りました。少し迷路に入りました。難しくな！という事です

④『情報汚染対策のための包括的な協力体制に向けて』
古田 大輔（ジャーナリスト/メディアコラボ代表、FIJ理事）



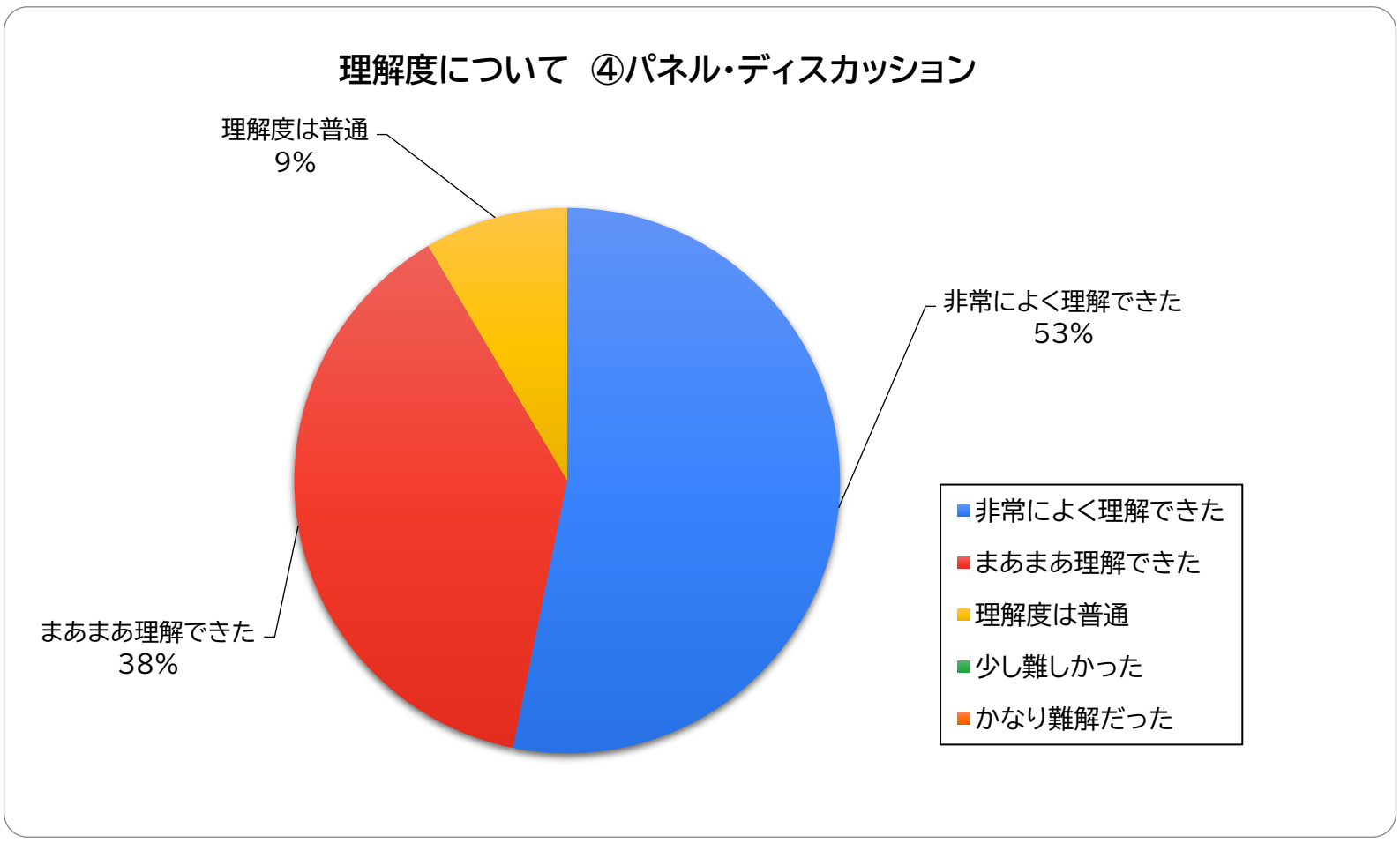
もっと詳しくお話しをお聴きできればと思いました。
何を信じて良いかわからないと、全体の信頼度が下がるというのは、実際に自分もそうだなと思いました。もはや、何が真実かわからないので、自分の考えを持つのが難しいです。
確信犯ではなく、中間層の人たちは何となく不安ということで、私が教えている学生は、その層が多いと改めて思います。だから、添加物を含む3大嫌われもの等の安全性が高い説明をすると、かなり考えを変えるのだなと思いました。 「あなたの考えは違う」と言われるのは、誰でも嫌、というのは、やはりそうなのだなと思いました。「なぜあなたはその情報を信じたのですか？」と辿っていくというお話しは、実行できるか難しい面もありますが、よく考えて行きたいと思います。
そもそも信頼できる情報源とは何か、政府であっても発信できる情報は必ずしも分かりやすいモノばかりではない場合もあるし、食品のような科学的な情報から何かを抜粋して、かつ精確に伝えるのは極めて難しい、と頭の中で堂々巡りしながら拝聴しておりました。
「情報生態系の汚染」普段聴き慣れない文言でしたが、大きな社会問題になりつつあることだ、というのがよく分かりました。情報があふれる社会の中で情報の混乱はあらゆる情報の信頼性を低下させる、との話に純粋に怖い、と感じました。自分の信じた情報を自分で疑う、ファクトチェックしてみる、クリティカルシンキングを身につける必要を感じました。
情報生態系汚染という用語に新鮮さを感じ、きちんと整理されていて、勉強を進めたくなった。
問題の切り分けがクリアでモヤモヤが晴れた気がしました。
ファクトチェックとメディアリテラシーとの関係をもう少し掘り下げてもらいたかった
わかりやく聞けました
情報生態系の3つの分類と、それを利用して巧みに論破を仕掛ける手法の説明が秀逸で、”なるほど、この手で仕掛けられたらかなわないな”、と感じた。食品メーカー側としての立ち振る舞いの事例も挙げて頂き、腹落ちがした内容でした。
味の素は多くの人にとって無害です。ただ、食物アレルギーがある人の中のほんの一握りの人たちは、発熱し、ほほのあたりが赤く熱を帯び、かゆみが出たりすることがわかっています。私共は一握りの人たちに対して起こった出来事への対策を話し合う仕事をしています。患者支援の活動をしていると、食品企業からは「味の素を根拠なく怖がる人達」として一律に扱われ、他の患者団体や消費者団体からは「一般的に味の素は問題ないものでアレルギーを起こす人は少ないと発言する団体」として疎まれる場面があります。私たちは耳が聞こえないふりをして、個別具体的な「味の素で発熱する人に対しての生活の工夫」をアドバイスしています。ちなみに私は漬かりすぎたきゅうりの糠漬けに味の素を振りかけて食べるのが大好きです。 今日は素敵なお話しをありがとうございました。
お話しの内容大変共感しました。特に反ワクチンと反添加物の確証性バイアスの件、こちら側ででもよく散見されるお話でぜひいろいろ伺いたいです。
誤情報や偽情報が複雑に混ざり合って言説が形成されている状態、またそれによって起こりうるトラブルについてイメージがしやすかった。また、ファクトチェックが対象としていることがどの点なのかについて雲を例えて説明してもらえたのがよかった。
ごく一般的な市民としての自分が実際にどうすれば良いかが分かる方法を示して頂きたかった。
大変勉強になりました。すぐにアンケートに記載しなかったため、果たして自分がどれほどご講演の内容を理解できたのか曖昧になってしまいました。ただ、ファクトチェックの真実性、正確性の検証について天気を例になるほどと納得です。状況を吟味し、論理的な思考力を改めて思います。
ファクトチェックの理論的説明でSNSへの評価を見直しました
「フェイクニュース」という言葉には明確な定義がないことを知った。
情報汚染対策において、ファクトチェックは重要だけれど、ファクトチェックだけでは解決できない、ということが、よくわかりました。事実を推測や判断から切り分ける、クリティカル・シンキングなど、様々な情報があふれている現代において、個々人もリテラシーを高めることが必要と感じました。
ミスインフォメーションなどの3分類や、雲のたとえなど、わかりやすく説明くださり理解が深まりました。海外では、メディアリテラシ―についてシニア向けからZ世代向けまで発信している団体があると聞き、日本でもそのような活動を期待したいと思いました。
聞きやすく、分かりやすかったです。タイトルそのまんまですが、「包括的な協力体制」大事ですね。
情報環境の課題は、ファクトチェックだけでは解決できないため、メディアリテラシー教育など様々なアプローチが必要であることがあw借りました。ミスインフォメーションの3分類の図や、雲・雨・傘の例えが分かりやすかったです。
情報汚染への対抗策には、数多くのファクトチェックが効果的なことが理解出来ました。
Misinformation、Disinformation、Malinformationの区分、これらが複雑に絡まって情報生態系の汚染が拡散することの説明が非常に興味深かったです。 また、クリティカルシンキングを、まず自分のことを疑ってかかるという考え方も新鮮でした。
情報生態系を汚染するインフォメーションの3分類で考えてみる事から始めたいと感じました

⑤『なぜテクノロジーでファクトチェック支援に取り組むのか』
藤村 厚夫（スマートニュース株式会社フェロー、FIJ副理事長）



アルゴリズムは奥の深い課題だと知りました。
テクノロジーでテクノロジーを正していくというのは、期待したいと思います。
フェイクニュースを検知する仕組みづくりには期待したい。できれば早期段階で科学的根拠のない言説にはアラートがつくようなアプリでもあれば、なお望ましいですが、難しいか……と思いました。
情報が多すぎるから誰かに選択を委ねたい、効率よく上質な情報に触れていたい、誰もが同じことを考えていて、そこには大きなテクノロジーがもたらす課題があることを初めて認識しました。アルゴリズムについてそういう仕組みがあることを理解したうえで情報に触れるのとそうでない、のでは得るものが全然違う、ということと理解しました。
ネットからの情報収集は、何某かのプラットフォーム、検索エンジンのアルゴリズムのフィルターを通っており、各プラットフォームの特性で色付けされていたとは気付かなかった。新聞を複数紙取っている先輩が事実は多角的に見ろと言っていたのと同じことだと思った。
Smart News是非利用してみたいと思います。ただ、誰かにフィルタリングしてもらった良質な情報だけを見聞きしてヨシとするのは、リテラシーを育てることとは相反すること。ご紹介の本を早速注文しました。
テクノロジーによる情報操作の危険性が知られた
日常的に使用しているIT機器に関しても、アルゴリズムによる情報の操作により大きく世の中の流れを変えてしまえる事に対して、本当に怖い世の中になったと感じた。会社毎のアルゴリズムを”秘伝のタレ”と表現されていたことが面白くもあり、そこを監視してゆくアプローチが必要というチェッカー側の責務という所も納得できた。
FIJの活動がとても大切だということがとてもよくわかりました。ありがとうございました。
アリゴリズムのフィルタ問題について、社会的に議論がなされるまでになった経緯についてよく理解することができた。またそこから現在のSNSを取り巻く情報の課題について改めて整理することができた。
やはり具体例をもう少し示して道順を提示して頂きたかった。
アルゴリズムの問題、今後の一層の取り組みをお願いしたく思います。
SNS情報の実情を知り大変参考になりました。
SNS情報には情報が操作されているという”アルゴリズム問題”があることを知った。
アルゴリズムによって情報が取捨選択して届けられているであろうことは、何となくは理解していても、ではどうしたらよいのかがわかりませんでした。対抗するテクノロジーが進んでいけば、本当のニュースと偽ニュースの見分けがつきやすくなったり、偽ニュースが拡散された時に、速やかに本当のニュースが流れるようになるのか、期待したいと思いました。
私もいくつかのsnsを利用しているので、プラットフォームによる違いの話は興味深かったです。
アルゴリズム問題の話は初めて聞いた内容だったので、興味深かったです。
SNSの情報によって感情の感染が起こり情報操作まで できるとは恐ろしい事だと思いました。
SNSのアルゴリズムによる拡散のメカニズムが興味深かったです。 多様な担い手だけでなく、テクノロジーを活用した検知ツールを期待します。
テクノロジーでファクトチェックを完全に行うには難しさを感じます。しかし、第一フェーズのなかで論点をさらに整理してゆく過程としてテクノロジーの利用は必要でしょうか？インタネットの時代の中、情報があふれておりこのようなスキーム（仕組み）も必要なんでしょう。先に記載の通り、専門家とのコミュニケーション能力の必要性を更に感じました

⑥パネル・ディスカッション(進行:SFSS山崎)『いまなぜファクトチェックなのか』



聞いていて、地道な発信の大切さをあらためて感じました。
実際にファクトチェックでご活躍されていらっしゃる方々のお話しが大変参考になりました。
ファクトチェックの内容自体を見てもらうこともだけれど、裾野を広げて、チェックできる人を増やす機会を作るというのは、確かに大切で、情報リテラシー向上につながったらいいなと思いました。
味の素®が題材に上がるのは嬉しくもあり残念でもあり、単なる感想です。 データはたくさんありますが、コミュニケーション技術/戦略が今一つとの反省です。
メディアの場合、意図的に誤情報を流す一般紙もありますが、食品科学のような専門誌の場合、記者が半端な理解のまま記事を書くと、おおむね正しいけど随所に間違いがある記事、あるいは何を伝えたいのかサッパリ意味不明な記事に仕上がることもあると感じています。出版社では当然「分からないまま書くな」と教育はされますが、時間に追われて半端な記事を発表し、結果的にメディアリテラシーが低いと非難されている、という構造かと思います。メディアの科学教育の仕組みは構築できないものでしょうか。
添加物の例がわかりやすかったです。発信力について　誤情報発信者＞間違えを正す人　まさに自分ごとと考えられることと思いました。結局発信を続けるしかない、情報を出していくべき、というのが結論とおもいました。
わからない用語が会話の中に出てきたので理解度は完全ではないが、講師の先生たちの本音も垣間見えて、興味を持って聞けた。
ファクトチェックと同時に正しい(と自らが信じる)情報を発信し続けることが重要と理解しました。
質問については科学コミュニケーションの「不十分さ」を指摘すべきだった
唯一の食品会社の事例として味の素様の取り組みが紹介されていましたが、味の素様側の見解や、これによりどのようなことが社内外で起きているか、紹介できる範囲で深堀りしていただきたかった。
難しいことを優しい言葉に置き換えながら話すことは大切ですね。ありがとうございました。
先生方のお話し大変共感することばかりで大変楽しく聞かせていただきました
ファクトチェックは現在の状況を劇的に変えうる力を持っていない限界について理解できた。一方で、地道に続けることによって誤情報の拡散に一定の抑止力がかかることも希望として見えたことがよかった。
私は、ワクチン反対論者なので、感情的になり、冷静に聞けなかった。 故郷の京都にも自由に帰れない、声高に言えない雰囲気がある。 ジョコヴイッチ選手へエールを送りたい。
全体的に必要性は理解できたかと思うが、具体的に何をすべきかがつかめなかった。
私の質問から話を広げて頂きありがとうございました。
古田講演者のご発言でしたが、確証バイアスについて、ワクチンを打たない人はなぜそう考えたか聞いたところ、無添加を好む人がすごく多かった。またヨガが好きな人も多く自然な治癒力を信じるなど、アルゴリズムで囲まれている。SNSの中での解決の難しさなどファクトチェックに関する様々な事象を考えさせられました。
講師の皆さんのファクトチェック活動に感銘しました、世の中に活動を広げフェイクや誤情報発信する人達を抑制する機能もファクトチェックの重要なポイントと思います
パネルディスカッションの皆さんのご意見は大変、勉強になりました。特に、古田さんのワクチン否定者のお話は非常に参考になりました。
拡散しやすいニュースや、週刊誌の見出しとして売れるニュースというのは、危ないことである場合が多いこと、確信犯は訂正しない、信頼性の高いことが負けることがある、ということなど、何となく感じていたことについて意見交換され、もやもやしていたことが少し整理できました。ひとりひとりが吟味志向を持っていくことが大切ということ、そのために自分が正しいと思った情報をまずファクトチェックしてみることからやってみたいと思いました。
各質問に対する4人の演者の方のそれぞれのお話が非常に興味深く、大変勉強になりました。即効性？はなくとも地道に発信し続けること(時には早く伝えること)、対話することの大切さも再確認できました。
みなさんとても丁寧に、でも本音やリアルな体験も交えてお話しくださっていて、分かりやすかったです。
ファクトチェックは、1回実施しただけではあまり効果がないかもしれませんが、地道に正確な情報を発信し続けることで、情報を浸透させていくことが大切だと感じました。 自分も情報を発信する際は、誤情報にならないように改めて注意しようと思いました。
地道に正しい情報を流し続けることが大切なことが理解出来ました。
メディア出身でファクトチェックの第一線が活躍されておられる方のディスカッションでたいへん聞きごたえがありました。

⑦ 今回のフォーラムについて、率直に思われたことを何でもお教えください

普段何気なく聞こえてくることが、実は体系的に説明可能であることが良く分かりました。とても興味深く聴かせていただきました。ありがとうございます。
全部の講演がよかったと思いますが、特に古田 大輔氏のご講演やパネルディスカッションでのご発言が明快で、内容についても共感できました。
特に古田先生のお話が非常に勉強になりましたなり
ファクトチェックに特化してこれだけの時間話を聞くことは無かったので、とても新鮮か感覚を受けています。
ファクトチェックというと、専門的知識がないと非常に難しいように思えていたが、パネルディスカッションであったように、まずは自分で情報の信ぴょう性を判断するということもファクトチェックにつながるということを聞いて、様々な情報を自分なりに精査するように心がけたいと感じた。また、「自分が正しいと信じた情報でなければ拡散しない」という言葉は大いに共感できました。
情報過多な現代において、正しく理解する難しさを感じました。 どんなに正確な情報より、間違えた解釈でも自分の都合の良い心地よい情報に流されてしまうこと。正しい方向へ導くことは地道に長い時間をかけて歩み寄り、相手を理解することも大切だと感じました。
Zoomでもいろいろとお話しをお聴きできて有意義でした。食品安全に関するファクトチェックを考えるきっかけになりました。演者の先生方と直接お会いできればなお良かったかと思いました。
自分が正しいと思っていることのファクトチェックから始めてみてはというコメントで、今まで自分は正しく情報得ることができている（他の人が間違っている）と心の中で考えている事実に気づかされました。
矢面に立つには相当の情報量や体感（実経験）が必要かと。 表札を外したり家族の情報を削除したり、覚悟が必要ですね。
藤村氏が、「（50歳代以上ではなく）若い人に伝えるのが効果的」といったお話をされ、私は大学生に講義で話すので、改めて大事な仕事と思いました。学生への対応が大変で、このところこちらのイベントにあまり参加出来ないでいましたし、落ち込むことも多いですが、元気を頂けました。ありがとうございます。
ファクトチェックは社会的な正義のためにあるのだと思っていました（ファクトチェッカー＝正義の味方？）。しかし、必ずしも、それが必須の心構えではないことがわかりました。既にファクトチェッカーとして活動している皆さんのモチベーションは何かを知りたいです（もちろん正義を振りかざす連中は、だいたいヤバいということは心得ております）。
非常に勉強になりました。自分自身が信じた情報のファクトチェック実施してみようと思います。
チャットにも書きました。同じこと書きます。 ロシア・ウクライナの情勢では、ニュースから色々なことが伝わってきますが、情報戦ということもあり、偽情報もニュースになっていると思います。世界戦争の恐れがあります。ファクトチェックは、命がけですね。 対象により、危険度は変わりますが、ファクトチェック発信者は、知識はもちろん、勇気と強い信念が必要ですね。担い手を増やして、普通にファクトチェックが、行えるようにしたいと思います。
狂信的な3割を相手にするのでは無く、逡巡している4割がターゲット・・・という表現、そして「自分が気に入った情報をファクトチェックしてみるとよい」等、とても実践的な考え方が紹介され、とても役に立ちました。
根気良く行動を続けることが大切なのでしょうが、自身が的になるという内容がありましたが、知らずに誤ってよりも意図的に情報を流す側からするとファクトチェックは邪魔な存在なのでしょうね。何かふぁいくとチェックする側が守られる仕組みが構築されると良いと思いました。
とても興味深く、パネリストが議論されるのを聴いているのはとても面白かったです。
ファクトチェックの位置づけは理解できたが、情報社会の危険性をより包括的に示す必要がある
たいへん興味深く学ぶことができました
ファクトチェックの重要性は増してくると思うが、まずはファクトチェックの存在を地道に知らしめることからか。
18歳選挙権に伴い義務教育でも選挙を教えるようになりましたが、公約のファクトチェックの重要性についてもカリキュラムに含めるなど、ファクトチェッカーを養成していかなければ日本では活動のすそ野がひろがらないのではないか、と思いました。
。IT技術やゲノム編集など、新しい科学技術が人類にとって平和のために使用されてゆく事を実践して行かなければならないと強く感じました。
ファクトチェックは、事実を確認することということが良くわかりました。健全な社会を形成していくため、なんとなくではなく事実に基づいた情報提供、正しい情報提供の重要性を理解することが出来ました。ありがとうございました。
どこかの意見交換の中で、どなたかが雑誌は銀行や病院の待合室に置いてあり、見ている人は女性が多いかもしれないと話されていたと漠然と記憶しています。それはバイアスのかかった視点だと思いました。女性の共働きは65％を超えています。昼間の病院や銀行にいるのは男女問わず高齢者が多いです。本題はそこではなく「偏った視点の記事が掲載された雑誌を誰が読んでいるのか」だったわけですが、これはぜひ、メディアリテラシーのテーマに含めて、媒体ごとの読者層分析をしている人の話を聞きたいと思いました。
食のリスクについて強い思い込みにとらわれている人に対しては、ファクトチェック以外の別のアプローチが必要だと感じた。あるリスクについてどのように感じているのか、人によって大きな差異があることから、それぞれをゾーニングして、それぞれに情報発信の仕方を変えていく必要があるように思う。
食の安心安全フォーラムというタイトルからかけ離れているが、内容は期待以上に良かった。
全体を通して、 「ファクトチェック」という言葉の捉え方、考え方（概念）について整理できたと思う。 意見の相違に、つい感情的・攻撃的になってしまい、本来の目的を見失ってしまう。 「呪文」のようにファクトチェックのガイドラインを唱えて、冷静な気持ちで情報に向き合う必要がある。 頭だけでなく、心の鍛錬も必要だ。
ファクトチェックのむつかしさ、必要性等、よく理解できました。
ファクトチェックは万能ではない、ということは忘れないようにしないといけない。ファクトチェック＝正しいこと、という正義感だけで突っ走ることは非常に危険
パネルディスカッションでも自分にはレベルの高いところで意見交換されているように思われた。こちらのレベルアップが必要。
ファクトチェックは重要ですが、やはり一般消費者まで浸透させるのが重要ですね
今回受講して、ファクトチェックの考え方や方法論は理解できました。しかし、自分がファクトチェックをしようと思うときは、うそを暴こうと思って実施すると思うので、私見を抑え、攻撃的な表現をしないというのは難しいと思います。 私自身は、ファクチェックは理性的な方に任せて、その成果物を武器に戦う側に立っていようと思います。
ファクトチェックの担い手を育成し、誤った情報を避難ではなく抑制していくことへの重要性を感じました。
講師陣のそれぞれの得意分野で講演してくれたのが面白かった。言葉じりをとらえてのファクトチェックよりも論調全体のファクトチェックが重要かと思います。聞く人に誤った方向を伝える事を抑制する事が重要と思います。易しく明快に説明する事は言葉じりをとらえてのファクトチェックに陥りやすいです、若干難しくても背景を話しながら事実を伝える山崎流も悪くはありません。
ファクトチェックは単にフェイクニュースの真偽を問うことが目的ではなく、ファクトチェックの担い手を増やし、市民のリテラシー向上が目的であることを始めて知ることができました。また、登壇されていたすべての先生のお話は、実際、ファクトチェックに携わっておられるので実体験のお話が聞け、非常に興味深く勉強になりました。ありがとうございました。
食品添加物やゲノム編集技術等に関する誤情報に対しては、地道な科学に基づく正しい情報発信しかない。それも第三者による分かりやすい情報発信が重要であることを再認識した。
パネルディスカッションの中で、50代の人間は何を言ってもダメと言われたことは、ショックでした。人生100年時代ですので、50代でも柔軟な思考をもって、少しでも社会に貢献できるよう心掛けていきたいと思っています。
ファクトチェッカーにならずとも、ファクトチェックというものがあってこういうものなんだよ、ということを知っているだけても情報への接し方が変わるのではないかと感じました。古田さんがおっしゃった「いいな、正しい、その通りと思った情報からファクトチェックしてみるとよい。」も、よいヒント・気づきになりました。
食品のリスコミをするにあたり、食品安全の知識だけでなく、今回のような情報の流れてくる仕組みや向き合い方などたいへん大事であると感じました。
週刊誌の「添加物は危ない」という記事が相変わらず掲載されていますが、以前に比べて反響は少なくなってきていると感じています。それは地道なファクトチェック活動の成果なのではないかと思います。 改めて、企業側からも積極的に情報発信することの重要性を感じました。
指摘をし続けること、わかりやすく、インフルエンサーを巻き込む　等のことは実際の業務にも応用できると感じました。また、自分が正しいと思った情報をファクトチェックするというのも大切なことと思いました。
内容は理解出来ましたが、実際に推し進めるには難しさを感じました。先ずはファクトチェックという視点で考えて行くことから始めます。

⑧ 今後、食の安全・安心・リスクに係る分野で、どのようなテーマのフォーラムを希望されますか？

放射線、残留農薬については新しい情報を更新していきたいです。
消費者リテラシー向上、メディアリテラシーの向上
なぜ、日本では食品偽装が蔓延しているのか（流通業者以外に、生産者や消費者の責任なども）。
経営リスク、ヒトの管理や教育によるリスク回避（コンプライアンス、ソーシャルメディアとの付き合い方）、リスクコミュニケーションから考えた食育の在るべき姿、最近話題の産地偽装（撲滅は出来ないと思いますが、なぜ起きるのか本当のところを）
文部科学省の担当官による学校給食に関連する法令の解説。
正確性を損なわずに分かり易く伝えるにはどのようにすれば良いか？
健康食品情報と健康被害事例の解明
まずは、SFSSのホームページをくまなく見て、活動履歴をあらためて振り返り、学習致します。
・食品添加物の無添加、不使用表示に関する話題 ・疑似科学に関する話題
農薬の安全性について（特に注目を浴びやすいネオニコチノイド農薬について）
バーチャルウォーターの問題もあり、輸入関税を上げないといけないと思うが、TPP のせいか、安けりゃいいとなっている。遺伝子組み換えなど表示されない問題。イチゴなど65回？農薬散布だと思うと、食べる気が失せる。紅ショウガなど見た目のため、赤色塗料をつけるのをやめてほしい。基本茶色でないとダメと法律で定めろ。 自然界でも鮮明な赤は、毒虫という警告色であるのに、自然に反している。
食情報に関するファクトチェックの事例報告
サイエンスコミュニケーション
日本の食品表示制度と海外の制度との比較
〇〇が危ないという書籍を書いた人を呼んできて、本当にそう考えているのかなぜそう考えたのか議論したい。
企業における消費者とのリスクコミュニケーション方法
特にありません。
確証バイアスという言葉が何回か出てきましたが、心理学的な部分（さまざまなバイアス）も整理して学びたいです。 また、地方自治体のリスコミの取り組みについても知りたいです。地域でどう進めていくのが良いのか…
講師陣が優れていた。

⑨ 食のリスク情報に関するファクトチェックのあり方について、どうあるべきでしょうか？ご意見をお書きください

やはり、正しいことを継続的に発信することではないかと思います。
メディア（週刊誌）からセンセーショナルな記事が出たときなど、速やかな対応し早めに火消しに動かないといけないように感じます。
まずは、「情報発信者と話をする」というのは理解ができました。また、だれがその情報を書いているのか、その情報の素は何なのかを正しく確認することや科学的評価などをもとに情報を正しく評価する。そういった考え方の癖をつけることが必要だと考えます。
ファクトチェックに加え、コミュニケーション能力の強化も？ 本当（正確）でもなく、嘘（虚偽）でもなく、でも信じられる蘊蓄が短い時間で語られるかですかねえ。
まずは、仲間を増やすことですね。
添加物の場合、反対派は（例外でも、不正確な論文でも良いので）何か一つでも事例を出せば添加物の危険性を訴えられます。しかし、肯定派は「絶対に安全な食品は、そもそも存在しない」という立場で説明するので、最初から旗色が悪いです。学校教育や草の根運動と連動しないと、食のファクトチェックは機能しないのでは、と今日の講義で感じました。
もっと情報を出すべき。何も言わない、から隠している、と言われる風潮を感じます。
今日のパネルデスカッションでも言及されていましたが、食品関連事業者が前面に立つと当事者になって、ファクトチェックにならない。ファクトチェックは、行政機関か、食品ジャーナリストが積極的に行ってほしい。または、確証バイアスが2項対立している消費者団体などが会話してファクトチェックすることも興味深い。
一方的なチェックと指摘は危険性があり、共に考えて理解を深める必要があると思う
ファクトチェックと併せて、どのように評価し、どのような行動をするのかを、十分意見交換することが重要であることがわかりました。
結果を誰に向けてどのようにアピールするかが重要ではないかと、今回のフォーラムを聞いて思った。
弊社は長年アクリルアミドに対して研究を行い、単独企業として積極的な情報公開は実施しておらず、話題になるような事を避けてきた。製品不買運動につながる”社会的制裁”を避ける為ではあるが、競合他社は高AAMの新商品で弊社に攻勢をかけている。ここにすごくジレンマを感じている所です。
お話が合ったように、第3者機関（SFSSなど）による情報発信の重要性を確認することができました。食においては、発信する側の企業姿勢が重要と考えます。企業のコンプライアンス、クオリティカルチャーの重要性が増してきていると思います。内部告発者の保護などの社会基盤の安定なども含めて、情報を確からしさを確認できる世の中に向かっていくべきと考えております。
食に関わる当事者だけでなく、第三者の立場から誤情報を指摘する仕組みを早急に整える必要があると感じた。
アサリの産地偽装で知ったが、ゲノム全解析で出身地がわかるのか。驚きの展開。 内部告発しかありえないと思っていたので、科学の進歩に脱帽です。 リチウム電池等をとるために、世界で唯一税金を投入して、日本で深海岩盤破壊を行っているが、海の生態系に与える悪影響が測り知れないので、やめてほしい。
地道にコツコツとファクトチェックを行っていくしかないと思います。それにはお金もかかりますので、各大学や企業、団体、マスメディアとの意見交換なども必要ですね。
自分として勉強不足により思いつきません。
ファクトチェックをする動画サイトをどんどん作っていくべき。
SFSSはファクトチェックではなく食の安全と安心を科学する伝道者で良いと思います
確証バイアスに陥っている方に対し、科学的なこと（正論）を言ってもおそらく立岩さんが 言われていた3：4：3の法則のように、効き目がないと思います。残り7割の中間層、肯定派に向けてのファクトチェックを行い、フェイクであればなぜフェイクなのかという説明を分かりやすく（小学生でも理解できるぐらい）することが大切だと思います。そのようなファクトチェック活動を地道に行うことで否定派の人に徐々に響いていけばよいと考えます。
科学的な正しい情報を分かりやすく発信することが重要であると思う。
安全性の不安を消費者に広めるような情報に関しては、ファクトチェックを行い、正しい情報を広めていくことができるとよいと思います。 企業に誤った情報を信じたお客様から不安のお問い合わせをいただくことがありますので、そうした時に持ち込まれた情報をファクトチェックして、結果をわかりやすくお伝えできるとよいのでは、と思います。
あり方とは少し違うかもしれませんが、ファクトチェック情報を、誰に、いつ、どのように伝えるか（発信するか）ということも大切ではないかと感じました。例えば、食のリスク情報に敏感になるきっかけの一つが、自分の子供を持つことだと思うので、例えばその層に向けて、関心の高そうなファクトチェック情報を、整理した形でわかりやすく発信するなどもやり方の一つとしてあるのかなと思いました。
繰り返し、地道に、あきらめずに、続けて行くこと。リスコミもそうですが…。食に限りませんが担い手が増えることも大事ですね。
若い人たちへのメディアリテラシーの教育が重要だと思います。
食品添加物に関する情報が商業的に利用されない様にするには地道に時には大胆に情報発信することが必要だと思いました。
指摘をし続けること、わかりやすい言葉でインフルエンサーを巻き込むことの大切さが非常によく理解できました。
皆さんの活動を高く評価します。このような活動をより消費と接点を設ける事が出来るようになる必要性を感じます。日本にはディベートという考え方が根付いていません。学校教育などでファクトチェックなど議論する時代になると良いですね

⑩ 今回のオンライン・フォーラムについて、ご要望や改善すべき点がありましたら、ご意見をお書きください

食品業界でファクトチェックという概念を広める意味でも、隔年でもテーマとして取り上げていくと良いのではないかと考えます。
ありがとうございました。特にありません。
特にありません。全く問題なく視聴できました。
特にありません。快適でした。
感染症が落ち着いたら1回くらいは集まって行いたいですね。
Zoomでの登録名が最初名前だけだったので、会社名を入れたものに変えましたが、他の参加者はほとんど会社名を入れていなかったので、氏名のみに変えました。所属団体の公開の是非に関して、SFSS側では何らかの意図があるのでしょうか？
とても良い企画でした。参加費が1000円なら参加すると書きましたが、本当は5000円や1万円と書きたかったところです。ただ、こうしたテーマは広く一般の生活者に聞いてほしい内容です。学生にも聞いてほしい。となると価格が高いものには参加できない。ということで1000円を選びました。
パネルディスカッションが非常に良かった。 ありがとうございました。
途中離席せざるをえなかったのですが、動画配信もあり大変助かりました
消費者団体の代表や専門家ではない、ごく普通の消費者をパネルディスカッションに入って頂くようなことはどうでしょうか。
レジュメ、もっと早く欲しいです。
オンラインでアーカイブ視聴のため、子どものコロナによる学級閉鎖で自宅での視聴ができ大変助かりました。ありがとうございました。
3時間以内が良い時間の長さでした。
特にありません。 ファクトチェックの最新情報が聞くことができ、たいへん有意義でした。

⑪ SFSS事務局へのご要望

ありがとうございました。
いつもながら、素晴らしい講演者を集めていただき、ありがとうございました。 とても勉強になりました。